

1 賃上げ 大手の回答・妥結額、率ともに昨年からダウン ——経団連の2021年春季労使交渉の回答状況

経団連（十倉雅和会長）が5月28日に発表した2021年春季労使交渉・大手企業業種別回答状況によると、大手89社の回答・妥結額の加重平均は6,040円で、昨年から705円低下した。アップ率は1.82%で、昨年から0.21ポイント下落している。

製造業平均は6,242円で、アップ率1.88%

原則として東証一部上場、従業員500人以上で主要21業種に属する249社に対して調査した。19業種136社から回答があり、平均金額が不明な企業などを除く89社について集計した。回答・妥結額は定期昇給など賃金体系維持分を含む。

製造業82社の平均では、回答・妥結額が昨年比520円減の6,242円で、アップ率は同0.17ポイント減の1.88%となっている。

非製造業7社の平均では、回答・妥結額は昨年（6,648円）から1,700円以上低い4,869円で、アップ率は0.51ポイント減の1.42%となっている。

回答・妥結額が最も高い業種は建設

業種別にみると、回答・妥結額が最も高いのは「建設」（3社）で1万561円。昨年（1万282円）に続き1万円を超える水準となっている。アップ率は2.13%。

次いで高いのは「自動車」（15社）の7,075円（アップ率2.08%）で、以下、「繊維」（14社）6,390円（同2.00%）、「機械金属」（2社）6,373円（同2.06%）、「電機」（9社）5,837円（同1.73%）、「造船」（5社）5,814円（同1.88%）、「非鉄・金属」（8社）5,688円（同1.80%）——などの順となっている。

「造船」（5社）5,814円（同1.88%）、「非鉄・金属」（8社）5,688円（同1.80%）——などの順となっている。

私鉄はアップ率が1ポイント以上低下

回答・妥結額が最も低かったのは「私

鉄」（2社）の3,416円（従業員平均）で、アップ率は昨年（2.09%）より1ポイント以上低い1.06%。次いで低いのは「鉄鋼」（9社）の3,742円で、アップ率は1.27%だった。

（調査部）

2021年春季労使交渉・大手企業業種別回答状況[了承・妥結合]（加重平均）

2021年5月28日

[第1回集計]

業種	2021年		
	社数	回答・妥結額	アップ率
非鉄・金属	8	5,688	1.80
食品	6	5,642	1.72
繊維	14	6,390	2.00
紙・パルプ	5	4,837	1.59
印刷	1	—	1.98
化学	8	5,131	1.49
鉄鋼	9	3,742	1.27
機械金属	2	6,373	2.06
電機	9	5,837	1.73
自動車	15	7,075	2.08
造船	5	5,814	1.88
建設	3	1,0561	2.13
商業	1	—	1.82
私鉄	2	(従) 3,416	1.06
貨物運送	1	—	1.32
総平均	89	6,040 (5,708)	1.82 (1.79)
製造業平均	82	6,242 (5,598)	1.88 (1.78)
非製造業平均	7	4,869 (7,001)	1.42 (1.88)

(注) 1) 調査対象は、原則として東証一部上場、従業員500人以上、主要21業種大手249社
2) 19業種136社（54.6%）の回答を把握しているが、うち47社は平均金額不明などのため集計から除外
3) 平均欄の（ ）内は一社あたりの単純平均
4) (従) は従業員平均（一部組合員平均を含む）
5) 集計社数が2社に満たない場合など数字を伏せた業種があるが、平均には含まれる
6) 上記回答・妥結額は、定期昇給（賃金体系維持分）等を含む
資料出所：経団連HP（表の一部を掲載）